

# かごしまの昔話

## 「粗忽せんべえどん」



鹿児島市吉野町の国道十号を北上していくと左手に平松神社があります。明治初年の廃仏毀釈以前は、心岳寺と呼ばれていました。一五九二年豊臣秀吉に逆らったためにこの地で自害した島津歳久が、殉死者とともに祭られています。命日の七月八日(旧暦)には、その無念の死を悼み、多くの人々が参詣したそうです。これは「心岳寺参り」と呼ばれており、盛んに行われた頃の話として、次のような面白い話があります。

一日、まだ薄暗いうちに一人起きた。だしたせんべえどんは、弁当を風呂敷に包んで背負い、懐には財布を入れて出掛けました。海岸沿いにてく歩く、心岳寺に着いたのはお昼ごろ、大変にぎわっています。まずお参りしようと、財布をとりだし、お賽銭は右手に、小遣いは左手にと分けて持ったつもりでした。ところが、お賽銭をあげてから、左手を見ると、五銭しかありません。小遣い銭の方をあげてしまったと気づきましたが、どうしようもありません。気を取り直して昼飯を食べようと、木陰に行きました。弁当を入れた風呂敷包みをほどいてびっくり。中にあったのは箱枕でした。しかたなく、もう家に帰ることにしました。空腹を我慢して歩いていると、蒸し立ての加



治木まんじゅうを売っている店がありました。出窓には大きなまんじゅうが並べてあります。せんべえどんは、「ちっと銭が足らんかもしれん」と思いましたが、「ひとつ貰ったよ」と言ってお金を投げるように置き、まんじゅうを取って走り出しました。店の人が何か叫んだようでしたが、後ろも見ず走り出しました。そうして、ずいぶん遠くに来てから、まんじゅうにかぶりつきました。次の瞬間「うっ。なんじゃこいは」と取り落としてしまいました。まんじゅうは食べられないものでした。軽石で上手に作った見本だったのです。せんべえどんは腹をすかせたまま、とぼとぼと歩いて帰っていったそうです。

原話『鹿児島市 岩下藏五郎』  
文／有馬英子 絵／二石綱夫